

**令和 4 年度第 4 回 社会教育委員会議
議 事 要 旨**

1. 開催日時：令和 5 年 3 月 24 日（木） 14:00-15:00

開催場所：八尾市立青少年センター 3 階 集会室

出席委員：今岡委員・二宮委員・田中委員・村尾委員・角田委員・中道委員・
赤松委員・山根委員・畑委員（順不同）

2. 議事案件

1 令和 4 年度第 3 回社会教育委員会議書面表決結果案の承認について

2 報告事項について

（1）「八尾の家庭教育の未来を考える座談会」の動画配信について

（2）第 30 回こどもフェスティバルの実施について

（3）移動図書館の巡回場所の追加について

（4）今東光資料館企画展示の実施について

（5）令和 4 年度桂・安中青少年会館事業概要

（6）令和 4 年度八尾市指定文化財の決定について

（7）第 1 2 回八尾市小学生なわとび名人検定の結果について

（8）令和 4 年度八尾市はたちのつどいの報告及び次年度の開催予定について

3 その他

令和 5 年度指定管理者選定スケジュール等について

3. 意見交換の概要（○：委員、●：事務局）

1 令和 4 年度第 3 回社会教育委員会議書面表決結果案の承認について

※全委員異議なし

2 報告事項について

○こどもを取り巻く問題については、重要な課題である。子どものための仕組みづくりを様々な人たちが関わって取り組まなければならない。

●資料 1 の座談会の中でも地域としてどのように家庭教育に支援していけるかという意見も出た。八尾市内に 15 中学校、27 小学校区あるが、その校区単位で組織づくりを立ち上げたいと考えている。国でも掲げているコミュニティスクールや地域学校協働活動の活用を研究しながら、学校を核とし、地域のたくさんの団体の協力も得ながら、地域の中でのコミュニティを構築していきたい。

○現在、社会福祉協議会では、食品ロスをなくす活動を実践するなど、様々な団体が知恵を持ち寄って取り組むということは大切だと考える。

○大阪市のファミリーサポートに関わっている教え子から話を聞く機会があったが、サポートする側にもやりがいを感じるような仕組みが大事である。

仕組みがウィンウィンの関係になると、サポートの輪が広がって、好循環が生まれる。実をともなう八尾方式の確立を期待する。そうすれば、八尾市民も子供た

ちも幸せになれると感じる。

●喜びを実感できることが大切である。そういうことをベースにしながら仕組みづくりを考えていきたい。

○地域と学校の連携として、学校支援ボランティアが存在している。

学校支援ボランティアとして、遅刻してくる子供に対してサポートする活動ができないかという考えがある。不登校の子や発達障害を持つ子に対してどのような支援ができるか、今後学校とも相談していきたい。

●非常にありがたい話である。学校の教員も様々な業務に追われ、こどもと向き合う時間が減ってきている現状の中、地域の方のサポートがあるのはありがたい。

○教師の多忙化、子どもたちを取り巻く課題も多様化している中で、地域の人の関わりは非常に大きいと学校現場でも感じている。本校でも農園ボランティアや芝生ボランティアなどとして関わってくれており、農作物の収穫など

子ども達も貴重な体験をさせてもらっている。学校と地域が連携しながら取り組めることは積極的に取り組んでいきたい。また、教員よりも学校ボランティアの方に話しかける児童も多いことから、教員でない大人が学校にいることも非常に重要と考える。

○サポーターの専門性については、生涯学習としても大事な部分であり、これからまちを変えていく大人の質をあげていくことになる。市民向けにサポーター養成の機会が増えるとよいと考える。

○不登校の児童・児童がたくさんいると聞いているが、そのような児童・生徒に対して、どのように生涯学習センターのあるこども総合支援センター「ほっぷ」の相談窓口へつないでいるのか。

●「ほっぷ」等については、学校からも紹介しているし、市政だより等でも情報提供している。また、居場所づくりについて、該当の児童・生徒に対して学校を通じて声かけもしている、

●令和3年度は、437人の不登校の子がいた。令和3年度の就任当初、各学校にその子たち一人一人の実態を把握するよう指示を出し、その姿勢は浸透している。

○市内の数ある学校の中で、特に不登校対策が進んでいる学校はあるのか。

●多くの学校で、不登校状態になっている子に対して、できるだけ寄り添いながら学校へ復帰できるタイミングを相談したり、オンライン授業を活用しながら学習支援を行ったりしている。

3 その他

※意見なし